

令和7年度 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

- (1) 都立江戸川高等学校 学校運営連絡協議会（定時制課程）
- (2) 事務局の構成 教務主任＝事務局長 1名 計 1名
- (3) 内部委員の構成
校長、副校長、経営企画室長、教務主任、生活指導主任、進路主任
計 5名
- (4) 協議委員の構成（氏名の掲載も可）
元同窓役員、相談医、近隣小学校長、近隣自治会長、警察（スクールサポーター）
計 5名

2 令和7年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）の開催日時、出席者、内容、その他
 - 第1回 令和7年6月27日（金）内部委員5名、協議委員5名
協議委員委嘱、委員紹介、学校サポート委員委嘱、評価委員の選出、学校経営報告、学校経営計画、昨年度の学校運営連絡協議会の課題
本校の現状と課題等説明、意見交換
 - 第2回 令和7年11月27日（木）内部委員5名、協議委員5名
これまでの教育活動に関する報告
協議委員からの教育活動に対する意見、学校評価の内容検討、協議
 - 第3回 令和8年2月9日（月）内部委員5名、協議委員5名
これまでの教育活動に関する報告、学校評価の報告及び学校運営に関する提言、協議、次年度に向けた方向性・課題の確認、協議委員からの教育活動に対する意見集約
- (2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他
 - 第1回 令和7年6月27日（金）内部委員1名、協議委員1名
学校評価の基本方針の確認、昨年度の学校評価結果の分析・考察
今年度の学校評価の実施に向けた検討
 - 第2回 令和7年11月27日（木）内部委員1名、協議委員1名
今年度の学校評価の観点・項目、内容の検討、実施時期の検討
 - 第3回 令和8年2月9日（月）内部委員1名、協議委員1名
アンケート集計結果の分析・考察、課題の整理、評価報告書（原案）の検討

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

- (1) 学校評価の観点
「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」の観点で実施する。
- (2) アンケート調査の実施時期・対象・規模
 - ・ 11月 全校生徒 対象：83人 回収：66人 回収率：80%
 - ・ 12月 保護者全員 対象：83人 回収：16人 回収率：19%
 - ・ 12月 地域・住民 対象：4人 回収：4人 回収率：100%
 - ・ 12月 教職員 対象：8人 回収：8人 回収率：100%
- (3) 主な評価項目
 - ・ ※学校運営、学習指導、生活指導、進路指導、特別活動・部活動、健康・安全、施設・設備、ライフ・ワーク・バランスの推進など
- (4) 評価結果の概要（校長や学校全般への意見・提言内容）
 - ・ 例年同様8割以上の生徒が、「学校生活は充実している」、「江戸川高校に入学してよかった」という肯定的な回答をしているが、ホームルーム活動について、「活発でない」あるいは「自分自身がかわっていない」との回答が3割を超えている。この傾向は近年続いているが、ホームルーム活動を生徒が主体的に参加できるようさらに活性化させていきたい。
 - ・ 教員のアンケート結果は、生徒・保護者よりも肯定的な意見が高い項目が多かった。
 - ・ 保護者、地域の方々からは、学校から発信される情報が少ないという指摘が多かった。
- (5) 評価結果の分析・考察（校長や学校全般への意見・提言）
 - ・ 教員間でうまく連携を取りながら教育活動を行っている。
 - ・ 多様な定時制生徒の実態に合わせて、教員は工夫をしながら授業を行っている。
 - ・ 情報発信をホームページ等で随時行っているが、保護者や地域の方々にはなかなか伝わっていない。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題（学校の自己評価へ反映）

（1）学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

- ・生徒の授業についてのアンケート結果から、授業や行事に対する充実度、評価が高いと認識できた。
- ・情報発信について、その方法も含めてより工夫が必要であることがわかった。
- ・ホームルームや学校行事をより充実していく必要があることがわかった。

（2）学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

- ・近隣の住民は、学校の教育機能をより一層活用したいと望んでいることが分かった。
- ・火の用心への参加を通して、学校との信頼関係ができた。また消防署からも取り組みに対する評価を得た。
- ・より適正な評価を行うためには、協議委員に対して、もっと情報提供すべきである。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項（学校経営計画へ反映）

（1）学校運営

- ・生徒・保護者に対して、機会あるたびに学校の教育方針を説明し理解を得る。
- ・生活指導については、今まで以上に保護者との連携を強化する。

（2）学習指導

- ・基礎・基本の学習を徹底させつつ、生徒みずから考える授業展開を心掛ける。
- ・生徒が自発的に積極的に参加するホームルーム運営や学校行事をより充実させる。

（3）特別活動

- ・部活動を楽しんでいる。学校行事への積極的参加が減り、充実させることが必要である。
- ・外部の大会や行事への参加を推進する。

（4）生活指導

- ・保護者、関係諸機関との連携を図りながら、生活習慣や心のケアの問題に取り組んでいく。
- ・スマホの取り扱いについて今一度検討する必要がある。

（5）進路指導

- ・キャリア教育を充実させ、事前の取り組みや意識を強化し、個々の希望に応じた進路実現を図る。

（6）健康・安全

- ・生活安全教室、薬物乱用教室、セーフティ教室、防災訓練を継続して行う。

6 「学校が良くなった」と考える協議委員の割合

（1）協議委員人数 7人

（2）学校が良くなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	無回答
3	2					

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

【実績】 職員会議 0回 延0人 企画調整会議 28回 延0人

【成果】 特になし

- ・委員の意見を参考に、学校ホームページの充実をさらに図ることとした。

8 その他

- ・保護者のアンケート回収率を更に高めるため、質問内容を含め方法の検討の必要がある。
- ・評価精度の更なる向上のため、学校からの情報発信をさらに高めていく。